

令和7年度 授業力向上推進プロジェクト

GELPを活用した個別最適化 した4技能の育成に向けた研究

岐阜県立多治見北高等学校 加藤 知也

1

目次

1. テーマ設定の理由
2. 研究内容
3. 結果分析
4. 実践を通しての感想・まとめ

2

1. テーマ設定の理由

(1) 本校英語科の課題

- ① 大学入試に対応できる英語力の育成
= 英文和訳や文法解説に偏った授業

👉 Speaking/Writingに関する指導を
継続的に実施できていない現状

3

1. テーマ設定の理由

(1) 本校英語科の課題

- ② 中学レベルの学習事項の定着◎
⇨ 個人差が年々広がっている、、、

👉 生徒個々の能力に合った指導できている？

4

1. テーマ設定の理由

(2) 本研究を通して目指したいもの

4技能をバランスよくかつ生徒のレベルに合わせて育成

👉 高い英語力も持つ生徒の能力をさらに引き上げる

+

英語に苦手意識を持つ生徒を取り残さない授業実践を実現

5

2. 研究内容

(1) 研究対象

普通科1年生84名 英語コミュニケーション I

6

2. 研究内容

(2) 具体的な取り組み

日々の授業と家庭学習(既存の取り組みと絡めて)

① 英語コミュニケーション I において

- 本文まとめのWriting活動
(ex) 本文のRetelling、関連トピックのWriting
→ 英作文AI添削機能

7

CE Unit4 ~Writing~
(文字認識されるように丁寧に書く! 最低 50words)

自分で手書きさせる

添削を踏まえてリライト

Topic: Do you think humans can live on the moon in the future? Why or why not? Give at least one reason and its explanation. Write your opinion in at least 50 words!!

GELPに提出 + 添削

文法添削する

提出する

8

2. 研究内容

(2) 具体的な取り組み

日々の授業と家庭学習(既存の取り組みと絡めて)

② 日々の家庭学習において

家庭学習課題に英作文が含まれる場合

(模試の過去問演習など)

→ 英作文AI添削機能

9

The diagram illustrates a two-step process. On the left is the cover of a 'Practice Makes Perfect' book titled '進研模試過去問題集 (英語)'. A blue arrow points from the book to a screenshot of the GELP (Grade Evaluation Learning Platform) interface. The screenshot shows a submission screen with the text 'GELPに提出 + 添削' (Submit to GELP + Correction). A return blue arrow points from the GELP interface back to the book, indicating a feedback loop.

10

3. 結果分析

(1) ベネッセ総合学力テストの7月と11月実施の

単年度結果比較

👉 第6問の偏差値層別の度数分布で比較

		出力項目	60以上	55以上60未満	50以上55未満	45以上50未満	45未満
7月	平均点		51.9%	6.3%	8.1	11.0	
	平均得点率				36.8	50.0	
	受験人数		124	63	27	14	1
11月	平均点		56.2%	2.1%	10.4		
	平均得点率				47.3		
	受験人数		132	68	20	5	

60以上は4.3%増加

50未満は4.2%減少

11

3. 結果分析

(1) ベネッセ総合学力テスト11月実施の

過年度結果比較

👉 第6問の偏差値層別の度数分布で比較

12

出力項目		75以上	70以上75未満	65以上70未満	60以上65未満	55以上60未満	50以上55未満	45以上50未満	45未満
R7	平均点	14.0	13.2	11.6	9.7	8.8			
	平均得点率	16.5%	62.9	55.2	46.2	41.9	2.1%		
	受験人数	9	30	42	51	69	30	5	
		70以上の層増加				50未満の層減少			
出力項目		75以上	70以上75未満	65以上70未満	60以上65未満	55以上60未満	50以上55未満	45以上50未満	45未満
R6	平均点	10.1%	13.3	12.6	11.0	9.8			
	平均得点率	10.1%	63.3	60.0	52.4	46.7	16.4%		
	受験人数	4	19	26	59	44	22	22	15
出力項目		75以上	70以上75未満	65以上70未満	60以上65未満	55以上60未満	50以上55未満	45以上50未満	45未満
R5	平均点	11.0%	11.6	9.6	8.5	7.6			
	平均得点率	11.0%	55.2	45.7	40.5	36.2	10.6%		
	受験人数	19	10	50	54	61	42	17	11

13

3. 結果分析

(2) 生徒アンケート調査 (n=70)

①英作力に関する質問

質問1 GELPを使用前(9月頃)の英作力の自己評価

質問2 今(12月)の英作力の自己評価

選択肢: かなり得意/得意/普通/やや苦手/苦手

質問3 GELPの添削を通して以下を意識するようになったか
(複数選択可能)

英作文におけるcommon errors

単語のスペルミス/主語と動詞の一致ミス(3人称単数など)

正しい時制の使用/品詞を意識して書くこと/文構造の崩壊(主語抜けなど)

自動詞・他動詞の区別/可算・不可算名詞の区別/冠詞の使い分け

文と文のつなぎ言葉/語彙の豊かさ/文字を丁寧に書くこと/その他(自由記述)

14

3. 結果分析

(2) 生徒アンケート調査結果

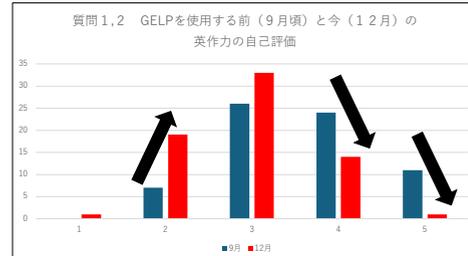
①英作力に関する質問

質問1 GELPを使用する前(9月頃)の英作力の自己評価

質問2 今(12月)の英作力の自己評価

選択肢: 1かなり得意/2得意/3普通/4やや苦手/5苦手

得意意識も持つ
生徒は増加
+
苦手意識を持つ
生徒は減少



15

3. 結果分析

(2) 生徒アンケート調査結果

①英作力に関する質問

質問3 GELPの添削を通して以下を意識するようになったか
(複数選択可能) 赤がトップ3、青がワースト3

1単語のスペルミス/2主語と動詞の一致ミス(3人称単数など)

3正しい時制の使用/4品詞を意識して書くこと/5文構造の崩壊(主語抜けなど)

6自動詞・他動詞の区別/7可算・不可算名詞の区別/8冠詞の使い分け

9文と文のつなぎ言葉/10語彙の豊かさ/11文字を丁寧に書くこと/12その他(自由記述)



ケアレスミスへの意識
but
理由説明が必要なミスへの意識は△

16

3. 結果分析

(2) 生徒アンケート調査 (n=70)

②GELPの使用に関する質問

- 質問1 GELPの使用によって、英語学習における負担は変化したか？
 選択肢：減った/やや減った/変わらない/やや増えた/増えた
- 質問2 GELPの英作文提出を期限を守って提出することができたか？
 選択肢：できた/ややできた/ややできなかった/できなかった
 ※「ややできなかった」と「できなかった」と答えた人は、
 なぜそう思いますか？（自由記述）
- 質問3 その他GELPを使っていて、「ここがよかった！」という点や
 困った点があれば自由記述。なければ空欄でOK。

17

3. 結果分析

(2) 生徒アンケート調査

②GELPの使用に関する質問

- 質問1 GELPの使用によって、英語学習における負担は変化したか？
 選択肢：1減った/2やや減った/3変わらない/4やや増えた/5増えた



18

3. 結果分析

(2) 生徒アンケート調査

②GELPの使用に関する質問

- 質問3 その他GELPを使っていて、「ここがよかった！」という点や
 困った点があれば自由記述。なければ空欄でOK。

★困った点

- ・添削をする際に、わざわざ正しいところまで消して書き直されるので間違えているところを探すのに手間がかかります。

Q1(ライティング): Steve Jobs founded Apple ~~Compstes~~ Computers with ~~Woznick~~ Wozniak. Apple is well-~~kown~~ known of for the iPod, the digital media player. ~~Surprisingly, the iPod was not~~ Surprisingly, the iPod was not the idea of Jobs or ~~Woznick or anyone at Apple. In 1979, Kane Kramer designed and created~~ the first digital media player called the IXI. ~~Kramer thought that in the future~~ Wozniak or anyone at Apple. In 1979, Kane Kramer designed and created the first digital media player called the IXI. Kramer thought that in the future, music would be ~~imputed~~ inputted into the IXI at shops or by telephones.

- ・スマホの読み取りが不正確であり、手打ちの入力が大変
- ・基本的に文を授業中に書いた後に放課後や帰宅後にやらなければならないので、忘れやすい。

19

3. 結果分析

(2) 生徒アンケート調査

②GELPの使用に関する質問

- 質問3 その他GELPを使っていて、「ここがよかった！」という点や
 困った点があれば自由記述。なければ空欄でOK。

★困った点

- ・Butで書いたところをhoweverに直されるなど、よくわからない変更に対して解説がないから理由がわからない。

①英作力に関する質問

- 質問3 GELPの添削を通して以下を意識するようになったか
 (複数選択可能) 赤がトップ3、青がワースト3

- 1単語のスペルミス/2主語と動詞の一致ミス(3人称単数など)
- 3正しい時制の使用/4品詞を意識して書くこと/5文構造の崩壊(主語抜けなど)
- 6自動詞・他動詞の区別/7可算・不可算名詞の区別/8冠詞の使い分け
- 9文と文のつなぎ言葉/10語彙の豊かさ/11文字を丁寧に書くこと/12その他(自由記述)

20

4. 実践を通しての感想・まとめ

- ◎実際の模試結果でも生徒アンケートからも、Writingに関して生徒の能力・意識の大幅な向上が見られた。
- ◎教員が毎回添削する必要がなく、教員の負担軽減につながった。
- ◎まず手書きで書き、それをOCR機能で読み取らせてGELP上で提出させたことで、文字を丁寧に書くきっかけにも。

△校内ネットワーク環境が不安定なため、家庭学習でGELP上に提出という形にしたが、提出を忘れる生徒が少なからずいた。
 △従来より負担が「やや増えた」と感じる生徒が多かった。
 △添削について「なぜ？」が提示されないため、教員側が適宜 common errorsとして提示し解説を加えらるとなお効果的。

21

4. 実践を通しての感想・まとめ

- ★学習習熟度学年によるAI添削サービスの使い分け
- ・文法・語彙学習の初期段階（1・2年生）
 - ➡表現力強化プロジェクト
（Topicは固定⇔修正部分の説明あり）
- ・受験期段階（3年生）
 - ➡GELP（修正部分の説明なし⇔Topic設定自由）

22